

行事予定 (2007年)

- 3月16日(金) 第2回常任幹事会
- 3月17日(土) 第66回教育セミナー(近畿大学)「輸血・骨髄検査・免疫電気泳動の実技講習」
- 4月21日(土) 第67回教育セミナー(慶應義塾大学)「輸血・骨髄検査・免疫電気泳動の実技講習」
- 5月12日(土) 第4回 GLM 教育セミナー(都市センターホテル)
- 5月13日(日) 第68回教育セミナー(昭和大学)「精度管理・検査室 management」
- 5月27日(日) 第69回教育セミナー(防衛医科大学校)「生化学・一般検査・微生物検査の実技講習」
- 6月1日(金) 第17回日本臨床検査専門医会春季大会(旭川グランドホテル)
- 6月2日(土) 第3回常任・第2回全国幹事会・第29回総会
- 7月20日(金) 第25回振興会セミナー(東京ガーデンパレス)
- 8月31日(金) 第4回常任幹事会
- 11月22日(木) 第5回常任幹事会・第3回全国幹事会(リーガロイヤルホテル)・第30回総会・講演会(大阪国際会議場)
- 12月14日(金) 第6回常任幹事会

巻頭言

日本臨床検査専門医会
会長 森 三樹雄

本会の活動母体となる委員会には、情報・出版委員会、教育研修委員会、資格審査・会則改訂委員会、渉外委員会、未来ビジョン委員会があり、さらに、昨年、内保連加盟を契機として、新設した保険点数委員会があり、これらの委員会がそれぞれ計画を立てて活動を開始しております。

第17回春季大会は、今年6月1日～2日に旭川医科大学の伊藤喜久会長のお世話で開催されます。ぜひ参加して情報交換を行ってください。情報・出版委員会では、例年と同じように教育セミナーを4回開催、また、JACLaP NEWS、JACLaP WIRE、Lab CPなどの発刊を通じて臨床検査に関する種々の情報を会員の皆様にお届けできると思います。教育研修委員会では、昨年に引き続き都市センターホールで第4回 GLM 教育セミナーを開催、また、渉外委員会では7月20日に東京ガーデンパレスで、第25回振興会セミナーを開催しますので、奮ってご参加ください。

本年は平成20年度診療報酬改定に向けての重要な年になります。平成18年度の改定では、-3.16%のマイナス改定で医療界に大きな衝撃を与えました。保険点数委員会は、臨床検査医学会と協力して、医療技術評価提案書を作成し、内保連を通して厚生労働省に提出することになっております。提案書提出のスケジュールは、例年より早くなりました。平成19年2月7日に行われた第101回内保連の例会で医療技術評価提案書の最終提出締切日は平成19年4月10日、各委員会で最終調整を行うための締切日は平成19年5月18日、斎藤寿一代表が提案書を厚生労働省に提出するための締切日を6月25日に設定しております。

一方、臨床検査の業界では、日本臨床検査専門医会、日本臨床検査医学会、日本臨床検査薬協会、日本衛生検査所協会の4団体で設立した臨床検査協議会を通じて、厚生労働省医政局経済課と勉強会を開催し、我々の要望を理解してもらい、現在の実勢価格による保険点数の引き下げの構図についても取り上げてもらおうよう努力することになっております。

その他、平成20年4月から特定検診という名称で、個人が加入している医療保険者が特定検診を提供することが義務づけられました。すなわち健康保険組合、共済組合、政府管掌健康保険などが、メタボリックシンドロームや生活習慣病を対象とした特定検診を実施することになります。厚生労働省の試算では、40～74歳の医療保険加入者約5,600人に特定検診を実施することになり、そのうちメタボリックシンドロームで1960万人、糖尿病、高血圧、高脂血症などで約340万人が異常と判定される見込みです。これらの人に特定保健指導が実施されることとなります。厚生労働省の目論みでは、この特定検診によって、生活習慣病やメタボリックシンドロームのリスク要因を減少させ、ひいては医療費を減少させようと考えているようです。このような膨大な人数を特定検診によって生活習慣病の患者や心筋梗塞の発生頻度を減少させることができるかについて、われわれも臨床検査専門医の立場で検証していかなければなりません。本年も皆様と協力して臨床検査医の地位向上のため努力して参りたいと思います。

【目次】

- p.1 巻頭言
- p.2 事務局だより、会員動向
- p.3 外来診療アンケート調査のお願い
- p.4 会員の声；死者の主治医として 死後検査との関わり
- p.5 臨床検査専門医認定試験合格にあたり
- p.6 三重大学医学部附属病院オーダーメイド医療部、編集後記



冬の草花(具満タンより)

JACLaP NEWS 編集室 大谷慎一(編集主幹)

〒228-8555 相模原市北里1-15-1 北里大学医学部臨床検査診断学医局内

TEL/FAX: 042-778-9519

E-mail: ohitani@med.kitasato-u.ac.jp

【事務局からのお知らせ】

《会員動向》

2017年2月23日現在数685名、専門医517名

《新入会員》(敬称略)

倉園 普子 株式会社PCL札幌
 松下 弘道 東海大学医学部基盤診療学系 臨床検査医学
 北中 明 香川大学医学部 臨床検査医学
 古川 泰司 帝京大学医学部 内科
 杉本 健 神戸大学附属病院 臨床病態免疫学
 小林実喜子 信州大学附属病院 臨床検査部
 田中 靖人 名古屋市立大学 臨床分子情報医学
 原田 健右 富山大学医学部 臨床分子病態検査学講座

《所属・その他変更》(敬称略)

吉田 博 旧 東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座
 講師
 新 東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座
 助教授
 田島 康夫 旧 帝京大学医学部附属溝口病院 臨床病理部
 新 国際医療福祉大学附属三田病院 病理部

《退会会員》(敬称略)

森野 英男 (2006年8月27日、死亡退会)
 坂岸 良克 今井病院(2006年12月31日)
 山本きよみ (2006年12月31日)
 廣岡 良文 愛知医科大学名誉教授(2007年1月27日)
 青木 昭子 横浜市立大学臨床研修センター(2007年1月29日)
 淡河 秀光 (2007年2月1日)
 中野 博 公立豊岡病院院長(2007年2月1日)
 茂木 積雄 独立行政法人国立病院機構
 いわき病院(2007年2月3日)
 井上 啓二 医療法人啓仁会咲花病院院長(2007年2月5日)
 平山 章 (2007年2月5日)
 奈良 佳治 市立四日市病院(2007年2月7日)

《振興会退会会員》

あすか製薬株式会社

【第17回日本臨床検査専門医会春季大会のお知らせ】

会 期：平成19年6月1日(金)～2日(土)
 会 場：旭川グランドホテル
 大会長：伊藤 喜久(旭川医科大学 臨床検査医学)

平成19年6月1日(金)

18:00～18:40

特別講演 「エキソコックス症」

司会 伊藤 喜久(旭川医科大学 臨床検査医学)

演者 伊藤 亮(旭川医科大学 寄生虫学)

19:00～ 懇親会

平成19年6月2日(土)

9:00～11:50

シンポジウム 『検査値を読み解く』

「PSA」

伊藤 一人(群馬大学大学院医学系研究科 泌尿器科学)

「Kappa, lambda chain assay」

清水 一之(名古屋市立緑市民病院)

「髄液蛋白分析」

藤原 一男(東北大学大学院医学系研究科 神経内科学)

「プロカルシトニン」

久志本 成樹(日本医科大学 救急医学)

12:00～12:50 ランチタイムセミナー

12:00～12:50 平成19年第二回全国・第三回常任幹事会

12:50～13:10 第29回総会

13:10～13:40

教育講演 「衛生検査所と病院検査室の新たな関係構築に向けて」
 佐守 友博(日本衛生検査所協会 理事)

13:40～14:10

教育講演 「病院検査部長、経営戦略を語る」
 藤原 睦憲(日本赤十字社医療センター 検査部)

14:10～15:00

未来ビジョン委員会作業部会報告 「臨床検査専門医会の未来に向けて」

【平成19年度第一回総会について】

平成19年度第一回総会が第17回日本臨床検査専門医会春季大会会場で開催されます。ご参加をお願いいたします。

開催日時：平成19年6月2日(土曜日)、12時50分～13時10分

会 場：旭川グランドホテル

議 題：平成18年度決算報告

その他

【平成19年度行事予定 変更分のお知らせ】

平成19年度日本臨床検査専門医会 行事予定、前回からの変更分をお知らせいたします。

今後も変更があり次第 JACLaP WIRE、JACLaP NEWS でお知らせします。その都度ご確認ください。

平成19年

8月31日(金) 15時～17時

第四回常任幹事会

開催会場：日本臨床検査医学会事務所

11月22日(木) 10時30分～12時

第五回常任・第三回全国幹事会

開催会場：リーガロイヤルホテル(大阪)

11月22日(木) 12時～13時 第30回

日本臨床検査専門医会総会・講演会

開催会場：大阪国際会議場(大阪)

【会費納入について】

1月下旬に平成19年度会費振込用紙をお送りいたしました。まだ会費納入がお済みでない先生は振り込みをお願いします。すでに先生のお名前が記入されていますので、勤務先、所属、住所、E-mail address の変更がありましたら通信欄にご記入をお願いいたします。

なお、振込用紙をなくされた先生は、郵便振込口座：00100-3-20509 日本臨床検査専門医会事務局までお願いいたします。

また、ご自身の振込状況が不明な先生は、事務局まで E-mail または電話 FAX でお問い合わせください。

今年度より過去2年間会費を滞納している先生には、Lab CP、JACLaP NEWS、要覧の発送、JACLaP WIRE の発信を停止いたします。悪しからずご了承下さい。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

最近、住所・所属の変更ともなって定期刊行物、JACLaP WIRE など電子メールの連絡が着かなくなる会員が多くなっています。

住所、所属の変更および E-mail address の変更がありましたら必ず事務局までお知らせください。

所属、住所変更は、できればホームページから会員登録票をダウンロードしてそれに記載し FAX 送信していただくか、もしくは E-mail でご連絡ください。

未来ビジョン委員会外来診療 WG より会員の方々に「外来診療アンケート調査のお願い」をメールにてお送りしました。
ご回答いただきますようお願い申し上げます。

平成 19 年 2 月 28 日

日本臨床検査専門医会
各位

未来ビジョン委員会
外来診療 WG
リーダー 大谷 慎一
メンバー 大谷 直人
西堀 眞弘
今福 裕司

外来診療アンケート調査のお願い

拝啓

平成 18 年度診療報酬改定において、臨床検査部門としては厳しい状況が続いている。

外来迅速検体検査加算が認められ、病院内における多少の抑止力になる可能性は考えられるが、診療、教育、研究の 3 本柱の一つである診療は絶好のアピールのチャンスである。最も早い、病院への貢献であると考えられる。我々は、医師であるが故に患者を診ることが重要である。外来診療 WG では、永遠のテーマである臨床検査専門医の外来診療の可能性を追求していきたいと考えアンケート調査を実施するに至りました。

つきましては、ご多用中とは存じますが、何卒宜しくようお願い申し上げます。

敬具

外来診療についてのアンケート調査 外来診療 WG

- (1) 目的：未来ビジョン委員会の外来診療 WG として臨床検査専門医の外来診療のあり方ならびに方向性をアンケート結果を含め検討する。
- (2) 回答期限：2月28日～3月21日までの3週間
- (3) 謝礼の有無：無
- (4) データの取り扱い：臨床検査専門医の外来診療のあり方についての提言書の作成のために使用。
- (5) 集計結果の取り扱い：今春の専門医会での作業部会報告のために使用。
- (6) アンケート回収方法：このメールでご回答頂きこのメール宛にご返信下さい。
なお、Fax (042-778-8599) でも回答可能とします。

以下のアンケートで該当する箇所に○あるいは内容をご記入下さい。

外来診療には検診、人間ドックの仕事も含まれます。

Q1 現在、外来診療を行っていますか？

() はい →Q2へ () いいえ →Q8へ

Q2 外来診療をどこで行っていますか？注1) 自施設とは常勤施設、

注2) 他施設は非常勤施設

() 自施設 () 他施設 () 両方(自施設、他施設)

Q3 自施設、他施設では何科の外来診療を行っていますか？

自施設 ()、内科系 ()、外科系 ()、その他 ()

他施設 ()、内科系 ()、外科系 ()、その他 ()

Q4 内科系、外科系とは具体的に何科ですか？回答例 一般内科、腎臓内科など

自施設 ()、内科 ()、外科 ()、その他 ()

他施設 ()、内科 ()、外科 ()、その他 ()

Q5 外来診療は週何回、時間帯、週何人ぐらい行っていますか？

自施設 週 () 回、時間帯 午前のみ・午後のみ・一日、週 () 人

他施設 週 () 回、時間帯 午前のみ・午後のみ・一日、週 () 人

Q6 主にどんな患者さんを診療していますか？

()

()

()

Q7 今後はどんな患者さんを診療していきたいですか？

()

()

()

Q8 もし、自分の好きなように外来診療をしてよいならば、どんな外来診療を行いますか？

()

()

()

ex)検査結果に関するセカンドオピニオンのな外来
治療一歩手前のメタボ予備軍の指導的外来

Q9 外来診療を行っていない理由は何ですか？

() 1 外来診療をやりたくない

() 2 外来診療が出来ない(患者が診れない)

() 3 外来診療はやりたいが、やれる環境にない

() 4 その他 ()

Q10 外来診療に関するご意見

()

()

()

アンケート御協力ありがとうございました。

日本臨床検査専門医会

会 長：森三樹雄、副会長：熊谷俊一、水口國雄

常任幹事：

庶務・会計 佐藤尚武、情報・出版委員長 石 和久、教育研修委員長 宮地勇人、会員資格審査委員長 橋詰直孝、渉外委員長 池田 斉、
未来ビジョン検討委員長 大谷直人、保険点数委員長 水口國雄

全国幹事：市原清志、一山 智、今福裕司、大谷慎一、岡部英俊、尾崎由基男、小野順子、北村 聖、小出典男、犀川哲典、諏訪部章、館田一博、
橋本琢磨、深津俊明、藤田直久、松野一彦、村上正巳、保嶋 実、渡辺清明、渡辺伸一郎

監 事：玉井誠一、濱崎直孝

情報・出版委員会

委員長 石 和久、会誌編集主幹 石 和久、要覧編集主幹 佐藤尚武、会報編集主幹 大谷慎一、情報部門主幹 今福裕司
近藤成美

日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1-19 アルベルゴ御茶ノ水 505

TEL・FAX：03-3293-5221 E-mail：senmon-i@jacp.org

【会員の声】

死者の主治医として 死後検査との関わり

「診療部診療科長(検体検査管理業務担当)の兼務を命
ず。」研修医と私のたった二人の病理科の診療科長として、

細々とやってきた私に、ある日突然、臨床検査に関する長い
名前の肩書きが加わりました。それまでは、病理医と検査医
を兼ねた、いわゆる AP/CP として活躍する諸先輩方を羨望
の眼差して見るのみで、一般病理の仕事とは異なる幅広い知
識が要求される臨床検査専門医はとても敷居が高いと感じて

いましたが、それを機に専門医試験の受験を決意しました。私としては、細胞診指導医試験以来の受験で、ワープロに慣れすぎた昨今では、自筆で文章を書くのにもとまどうありさまでしたが、当直中の技師についてクロスマッチを習ったり、数回のセミナーに出席して目からうろこが落ちる経験をしたりとしながら、今年 2006 年の夏、念願の合格通知を手にすることができました。臨床検査専門医は、茨城県では私を入れても 6 人と数が少なく、合格したことを周りに伝えても、そんな専門医があったのですね、と言う程度の反応しかないのが少し寂しいですが、それでもうれしさには変わりありません。私の悪筆にもめげず、ひよっとしたら答案の行間すら読み取っていただいたのであろう試験委員の先生方や、試験の運営に携わった多くの方たちにまずはお礼を申し上げたいと思います。

当院は、つくば万博の時期に創立され、20 周年を迎えました。400 床ほどの規模の病院で、ヘリポートを備えた救命救急センターを主体に、地域がんセンターや総合健診センター、緩和ケアやデイケア施設、さらに県の行政解剖を請け負う、つくば剖検センターなどを併設する地域の中隔病院として機能しています。当院の救命救急病院としての役割は創立当初から大きく、臨床検査の体制は、病理や生理機能などの専門性はあっても、臨床検査技師全員が採血や救急当直に対応してきました。一方、救急病院としての性格上、警察への届けでの必要な異状死体の事例に遭遇する機会が多く、死亡診断書の交付の点からも、死因の究明にむけて死後画像検査を日常的に行ってきました。御遺体を CT や MRI にかけることに抵抗のある施設もあるようですが、当院では設立当初から半ばルーチンとして画像検査を行い、死後画像データの蓄積をおこなってきた国内でも有数の施設として認識されています。近年オートプシーイメージング学会が立ち上げられ、生前の画像とは異なる、死後画像ならではの知見が蓄積され、独自の画像診断学が確立されつつあります。

解剖時での形態学のみには立脚した立場では診断困難な例が多いのは、多くの病理医が感じていることと思います。そのため、画像検査と同様に、剖検時に採取された血液、尿などを用いた死後検体検査に関しても必要性が高いと感じています。感染症診断のための培養や PCR 検査、薬毒物検査、急死症例における心筋トロポニン T 測定、さらには溺死体における電解質検査などがあげられますが、ある意味究極の検体バテともいえる問題も含んでおり、死後検体による検査の新たな基準値についても検討していく必要があると感じています。その点でも解剖医でもある検査医として何かできることはないかと模索しています。

解剖や死後検査の費用に関しては、現行の制度では、当院を含めて病院の持ち出ししか研究費などから賄われる施設が多いと思います。解剖は死者への医療行為であり解剖医はいわば死者の主治医である、という認識を高めて、解剖行為や死因などの解明に必要な死後画像、検体検査に関して、医療行為として保険適応の道を開くのが望ましいのですが、そのためには、社会的にも正確な死因の究明は必要であり、貴重な財源の一部を割く価値があるという機運が高まらなくてはなりません。検査学会としても考えていただきたい問題だと思っています。

(筑波メディカルセンター病院病理科 菊地和徳)

臨床検査専門医認定試験合格にあたり

今年、ようやく臨床検査専門医認定試験に合格し、僭越ながらお仲間に加えさせて頂きました増本純也と申します。よろしくお願いたします。初めて投稿させて頂きますので、自己紹介も兼ねて、私と臨床検査との関わりを述べさせて頂きたいと思います。出身は東京新宿牛込です。都立戸山高校から富山医科薬科大学薬学部に進学しました。いまではめずらしい定員留保二次募集でしたので、実際の入試を受けに行っておらず、富山県の位置すらわからない有様でした。薬学部を卒業した年に信州大学医学部医学科に再入学しました。会員の方々には呆れられるかも知れませんが、10 年間の学部生生活で、薬剤師国家試験、臨床検査技師国家試験、医師国家試験に合格し、それぞれの免許を手にすることができました。

薬学部では、3 年の後期から、生化学、細菌学、衛生化学の実践的な実習が行われました。それまで、多くの講義が量子化学、物理化学、有機化学といった基礎工学や物性物理化学的な事象を扱うものが多く、技術に対する裏付けは十分なのですが、頭でっかちとなりがちでした。尿糖、尿蛋白やクレアチニンの定量実習を行う際、メスピペットを口で吸い、誤って飲んでしまう者もいました。合成着色料の定量の際、突沸して天井が着色しました。自宅の水道水を空いた醤油瓶に詰めて持っていったところ大変量の窒素が検出されたこともあります。医学部の実習と比較すると、定量性に厳しいといった印象があります。4 年では 6 月まで研究室配属と並行して、臨床化学分析学や臨床免疫学など、筆頭に臨床という名の付く講義もありました。これらは、臨床化学などの検査関連の講義であったと記憶しています。したがって、私の場合、検査関連科目との最初の出会いは薬学部時代に遡ります。4 年では微生物化学研究室配属となって、微生物の能力に魅了されました。市中の衛生検査所では、微生物検査はもちろんですが、食品添加物、温泉水の組成、井戸水等の亜硝酸性窒素や河川の BOD(生物学的酸素要求量)、COD(化学的酸素要求量)なども定量されていると思います。また、それらに異常値が出た際の確認試験や、精度管理なども大変厳しくされていることと思います。そういう観点からすると、衛生検査技師という名称が過渡的になくなって行くということは些か寂しい感じがいたします。

最近、スマトラ島沖での大きな地震による津波災害などが報道され、日本をはじめとする環太平洋諸国による太平洋津波警報システム国際調整グループが改めて脚光を浴びているところですが、一方で、最新のシステムが導入されたとされる事例においても、システムが作動しなかったとか、システムは作動したが誤報と判断したなど、システムが十分に運用されないといった事例も聞かれます。最新技術が導入されても、運用は人間によって行われているものであり、人間がどのようにその技術を運用し、判断するかによって極めて有効なものになるし、逆に無効になる可能性もあります。

検査データは、その分野の専門家集団である検査技師によって厳しく管理され、定量された値です。また、薬学部時代の経験から、その手技は基礎的な自然科学の知識によって十分に裏付けられた信頼できるものです。これらのデータを臨床の現場で生かすも殺すも検査医次第であり、そのことを肝に命じてこれからも検査の値を読み、ひいては、微力ながら検査医学の分野にも貢献できればと考えております。検査医学会のみなさまにはこれからもお世話になると存じますが、ど

うぞよろしくお願いたします。

(信州大学医学部病理組織学/附属病院臨床検査部
増本純也)

三重大学医学部附属病院オーダーメイド医療部

検査部に身をおいて6年が過ぎ、臨床検査専門医も取得したことで、検査部に新しい風を吹かせたいと考えるようになりました。当部では、以前から遺伝子解析部門が充実した活動をしており、診療各科の遺伝子解析の要望に応じてきており、その内容は診療から研究に至るまで広範囲なものでした。その依頼数の増加と遺伝情報の保護の観点からも、どうしても遺伝医療を担当する部署が必要になってきました。これまで、遺伝医療は産科、小児科領域を中心に実施されてきましたが、我々ももっと広範に実施したいと考えていましたところオーダーメイド医療というキーワードにぶつかりました。折しも21世紀の医療としてオーダーメイド医療が注目されていたので、疾患を限定することなく、患者様を中心として、診療全科の疾患を対象とすることを考えました。この点では、中央診療部である検査部が中核であることが有利ではないかと考え、検査部を母体とした「オーダーメイド医療部」を平成17年11月に発足させました。ここでは、疾患遺伝子、疾患感受性遺伝子解析に加え、薬剤感受性遺伝子を含めた広範囲の疾患を取り扱うことを目標にしました。同年の臨床検査医学会総会のランチョンセミナーでその報告をさせていただいたところ、多くの方々から励ましの言葉を頂き、勇気付けられました。また、オーダーメイド医療部という名称が珍しいために、色々なメディアで取り上げていただき、患者様からの問い合わせも数多くありました。

オーダーメイド医療という言葉は、一般にも良く知られるようになりましたが、何をどうすれば実現化できるのか、どうすれば患者様に還元できるのか、雲を掴むような状態でした。ともあれ、誰かが先陣を切って進まないといけないという意気込みのもとで、取りあえずスタートさせることにしました。現在では、患者様個人個人に最適の薬物療法を提供することを目指しています。これをオーダーメイド薬物療法と呼んでおり、薬物投与前に遺伝子多型に基づく患者様の体質診断を実施し、投与薬剤の選択、投与量の設定をしようというものです。そして、このような遺伝学的検査に基づく医療を提供するに当たって、十分な検査前、検査結果説明が必要となってきます。これを遺伝カウンセリングと呼びますが、成人疾患を扱う診療科ではその理解が十分でなく、カウンセリングを我々が担当することもしばしばです。このようにして、これまで裏方であった我々が、患者様に直接関わり、医療を提供する時代になってきました。具体的には、免疫抑制剤、リウマチ治療、小児白血病治療、ヘリコバクター・ピロリ除菌療法等の薬剤の代謝酵素遺伝子多型解析を開始しています。

これらを進めてゆく上で、いろいろな課題が浮上してきました。1つには、薬物代謝酵素遺伝子多型の遺伝情報もガイドライン上は一般のゲノム情報と同等に扱い、遺伝カウンセリングの必要性をも明記しているため、今後増加が予想される検査件数に対応できるかということです。また検査費用も現在の自由診療の枠組みの中でどうするかも問題です。さらには、得られた遺伝情報をどのように診療に活用するかということです。まだまだよちよち歩きを始めたばかりで、様々

な問題を抱えています。しかし、今後必要になる医療として、諸先生方の御批判や御助言を頂きながら進めてゆきたいと思っています。

(三重大学医学部 中谷 中)

【編集後記】

亥年の平成19年を迎えましたが、早くも2月が終わろうとしている。今日は2月28日である。今年は暖冬であり梅の花が私の回りでも早く咲いている光景が広がっている。神奈川県では一回だけ雪が降ったが、東京は依然として雪が降っていない。雪の降らない冬は観測史上初めてであり現在も記録更新中である。誰が考えても温暖化が原因である事と結びついてしまう。2007年の第79回アカデミー賞ドキュメンタリー長編賞に選ばれた「不都合な真実」はその地球温暖化によって進行している数々の問題点をすどく説いている。アメリカの元副大統領アル・ゴア氏が環境問題に関する講演会を世界中で行っている姿が映し出されている。気温の上昇、雪や氷の消滅、海面の上昇、CO₂の増加、竜巻や大型ハリケーンの発生など全ての現象が地球温暖化に起因している真実が、莫大なデータによるスライドで語られている。地球の未来が益々心配である。東京にも一日も早く雪が降って欲しいと願っている。

また、今年のインフルエンザは2月に入り出回ってきた。今の所、昨年のような勢いは感じられない。A型、B型ともに出現している。インフルエンザ治療薬であるタミフルは良い薬であると思うが、内服した中学生が相次いで自宅マンションから転落死したため、厚労省はインフルエンザに罹患した子供を「二日間は一人にしない」ことなどを保護者に説明するように求める通知を医療関係者等に出した。厚労省のホームページに掲載されている旨の内容である。注意の喚起が必要であろう。

先日ですが、初期臨床研修指導医の養成ワークショップの講習会を受講し臨床研修指導医修了バッチを頂いた。これは、「初期臨床研修指導医養成ワークショップ」を修了した指導医に対し北里大学病院を支える医師養成への情熱を称えるとともに、病院内の教職員はもとより、患者様に対してもその姿勢を示すべく「修了バッチ」であるとの事である。デザインは、学祖北里柴三郎先生の直筆サイン(Kitasato)を取り入れ、医学教育に対する崇高な姿勢への思いが込められているそうです。このバッチを白衣の胸に付け日々仕事に励んでおりますが、なかなか良いバッチであり私は気に入っております。また、多少は反響がありましたので、前号に書いたレジオネラ症の方のその後ですが、治療の甲斐あって回復し一ヶ月後に退院となりました。本当によかったと思います。

また、今号では未来ビジョン委員会外来診療WGより会員の方々に「外来診療アンケート調査のお願い」を掲載しました。すでにメールで一足先にお手元にアンケートは届いている事と思いますが、さらなるご協力を頂きたくJACLaP NEWSにも紹介しております。ご回答、ご返信をお待ちしております。

こうしている間に2月28日が終わろうとしている。実の所、今日は私の誕生日である。感慨深い一日であった。あしからず。

(編集主幹 北里大学医学部臨床検査診断学 大谷慎一)